

【岐阜県】岐阜大学医学部医学部附属病院 泌尿器科

当院の立地

当院は平成16年に、司町（現岐阜市役所）から現在の地区に移転しました。駅からは約30分程度かかってしまうのが、立地としてはやや難点と思われます。現在、東海環状自動車道が建設中であり、2年後にはインターから、約2〜3分で着くようになるため、かなり便利になるかと思えます。

病院は当時としてはかなり斬新な作りで、映画「ジェネラルルージュの凱旋」のロケ地として使用されたことがあります。



当院の症例の特徴

当院には様々な治療を受けられるような環境が、整っています。ダビンチは2台有しており、主に膀胱・前立腺の手術に使用しています。膀胱は尿路変向術も、すべてロボットを使用して行っております。そのため、県内の施設から筋層浸潤膀胱癌の紹介が多く、現在では、日本で2位の症例数を誇っています。前立腺も年間80〜100例程度、腎部分切除術は年間20例程度行っています。そのほか、ブライキセラピーやIMRTも施行可能な体制が整っています。現在、副腎や腎もロボットの保険適応となっていますが、若い先生方の腹腔鏡技術の習得は必須と考えているため、現在も腹腔鏡で行っています。一方、転移性腎細胞癌も急激に増加しており、様々な治療法を体験できます。

また、腎移植も年間20例程度行っており、腎採取や腎移植時の血管縫合など、若い先生方に積極的にかかわってもらっています。グループ体制で診療にあたっていますが、特定の疾患にこだわらず、すべての症例を均等に割り振っています。そのため、結石性腎盂腎炎などの尿路感染症から排尿障害、悪性腫瘍に至るまで、薬物治療から外科的治療まで、幅広く経験できます。現在、悪性腫瘍症例がここ数年で急激に増えたことから、前立腺肥大症の手術や尿路結石の手術は、関連病院で指導を受けていただくような環境を整えています。また、臨床治験や医師主導臨床試験も積極的に行っており、筋層浸潤膀胱癌や去勢抵抗性前立腺癌、有転移前立腺癌に対し、手術と薬物療法を組み合わせる根治を目指すような、先駆的な試みも行っています。

当院の教育の特徴

当院では、一流の外科医になるためには少しでも早くメスをもつていただくという信念のもと、初期研修終了後から、積極的に助手に入らせていただいております。ダビンチ手術の第一助手はもちろんのこと、腹腔鏡手術のカメラ持ち、TURBT、前立腺生検、TULは、初期研修終了直後の先生方に担当いただき、執刀医あるいは重要な役割を担う助手として、研鑽を積んでいただいております。腹腔鏡手術に関しては、初期研修終了後、2〜3年目の先生方を中心に担当していただいております。ただし、ただならぬ手術をしていても上達しませんし、何より患者さんのためにならないので、ある程度の時間を区切って行うようにしています。その際、何が悪かったのか、今後どうすればよいのか、指導医の先生との振り返りを行っていただいております。また当院でのカンファレンスは、毎回熱い議論が交わされます。なぜ

その症例をカンファレンスに上げたのか、自身はどう思っているのか、今後どういう方針でやっていきたいかを最初に聞いたのちに、議論が開始されます。ガイドラインのみならず、これまでの報告ではどのような治療が選択され、予後がどうであったかまで、議論を深めていきます（カンファレンスに上げた先生を責めるようなことは決してしません）。これらを繰り返していくうちに、急激にスキルアップし、当院で1年も過ごせば、かなりしっかりした泌尿器科医に育っていきます。学会発表や論文作成も積極的に行ってくれるようになり、医療人として必要な知識を自然と身に付けられるようになっていきます。若い先生方の急激な成長を目の当たりにできることは、上司にとって、とても幸せなことと感じています。

また関連病院をセンター化することにより、結石、前立腺肥大症の手術、ウロギネ領域など、その治療にどっぷりとつかっていただき、極めていただくような環境を整えています。またロボット手術に関わらないことのないよう、ほとんどの関連病院にロボットを導入していただいております。各病院の先生方の教育体制も充実しており、どこの病院に行っても技術が身につかない、といったことの無いよう配慮しています。関連病院に行っても、腹腔鏡技術認定最低一人出すよう、関連病院には徹底しています。また大学にはロボット手術のCase Observation Site 認定医が2名（その人の手術を見るとロボット手術を行ってもよいという証書がもらえます）、腹腔鏡技術認定審査員が1名（県内では合計3名います）おり、本学で手術に入っているだけでも、自然と技術認定を習得できるレベルに達することができます。医局の先生方は気さくな先生が多く、気軽に相談できる環境を整えています。また、非常に仲の良い医局ですので、安心して日常診療に従事できるのも我々の医局の特徴です。本学での研修に興味のある方は、urojim@gifu-u.ac.jpまでお問い合わせください。



当院所属医師の資格（重複あり）

- 日本泌尿器科専門医 9名
- 日本泌尿器科指導医 2名
- ダビンチコンソールサーजन 9名
- ロボット手術プロクター 3名
- Case observation site 認定医 2名
- Robo-Doc 国際B級 1名
- Robo-Doc 国内A級 1名（取得予定）
- Robo-Doc 国内B級 1名
- 日本泌尿器科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医 7名
- 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 7名
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 4名
- 日本移植学会移植認定医 3名
- 日本内分秘学会内分泌代謝科（泌尿器科）専門医 1名